



スペシャルオリンピックス・ドイツ 第3回ラインラント・プファルツ地域大会参加報告・テニス

日 程： 2011年 6月6日 (月) 開会式、 6月7日 (火)、8日 (水) 予選・決勝

場 所： 100 Jahre Tennis Club Bitburg ビットブルグ市ドイツ

参加者： テニス競技・三田村 和 (14歳、みたむらのどか)、コーチ・三田村 真 (SO 埼玉・上尾ブロック所属)

種 目： テニス・女子・シングルス

結 果： 予選：個人技能 1位 (8人中) 技能得点 ; 285 点

決勝：ディビジョン1 (4人) 準優勝2位



予選・ディビジョニング決定のための個人技能種目 (6月7日)

氏 名	個人技能得点	順位	決勝 ディビジョニング
Nodoka Mitamura (三田村和)	285 点	1 位	1
Steffen Susanne	245 点	2 位	1
Hosp Liane	195 点	3 位	1
Heil Hilga	195 点	3 位	1
Scheffel Katrin	185 点	5 位	2
Eifert Madelene	185 点	5 位	2
Bonsmann Kristina	125 点	7 位	2
Kuehn Elke	120 点	8 位	2

決勝・総当たりシングルス戦 (6月7日、8日)

Div.	氏 名	勝敗数	順位	1 試合	2 試合	3 試合	得失 ゲーム
1	Steffen Susanne ①	3 勝	1 位	6-1 ^③	6-1 ^②	6-3 ^④	18-5
	Nodoka Mitamura (三田村和) ②	2 勝 1 敗	2 位	6-3^④	1-6^①	6-3^③	13-12
	Heil Hilga ③	1 勝 2 敗	3 位	1-6 ^①	3-6 ^②	7-5 ^④	11-17
	Hosp Liane ④	3 敗	4 位	3-6 ^②	3-6 ^①	5-7 ^③	11-19
2	Eifert Madelene	3 勝	1 位	6-0	6-0	6-2	18-2
	Bonsmann Kristina	2 勝 1 敗	2 位	6-0	0-6	6-0	12-6
	Kuehn Elke	1 勝 2 敗	3 位	0-6	7-6	2-6	9-18
	Scheffel Katrin	3 敗	4 位	0-6	0-6	6-7	6-19

今回、機会と縁に恵まれて SO ドイツ地方大会に参加することができました。まずは、この大会を企画し、準備された関係者、そして日独交流国際関係者に御礼を申し上げたいと思います。

昨年 2010 年 11 月に、のどかは大阪ナショナルゲームに参加し、女子シングルス部門で準優勝することができましたが、優勝したアスリートとの間には相当の実力差があったことが、のどかにとってとても悔しく残念な結果となったようです。その後、練習に励み、実力を鍛えて今回のドイツ国際大会に臨みました。

しかし、初めての海外渡航、重なる強行スケジュール、暑い気候要因、また日本と 7 時間の時差などにより、開会式最中に体調を崩してしまいました。翌朝、決して本調子ではない中、集中力を発揮して予選の個人技能、その後の決勝第一試合を順調にこなすことができました。本人も、そしてコーチ自身も個人技能が圧倒的 point 差で 1 位通過したことが大きな自信につながり、午後と翌日の第二、第三試合についても勝利を半ば確信し、慢心していたことも事実だったと思います。

午後の試合で、スザンヌと対戦するのですが、サーブがなかなか入らず、ペースを掴めないのは始めのうちでそのうちエンジンが掛かってくると徐々にこちらのペースになる、そう信じてプレーを続けているようでしたが、肝心なところで、デュース後の 1 本勝負に、自らのミスで二度敗れるとずるずるとゲームカウント 0-5 まで一気に追い込まれてしまったのです。さすがに、ここまで来ると焦りが出ますが、開き直って『思いっきり打って行け!』と指示を出し、再び自信を持たせようとし、1 ゲームはキープできました。しかし、そのまま押し切れ、1-6 で敗戦となったのです。

終わってからは、本人もコーチも結果に納得できず、とても悔しい思いをしたのですが、終わってみればその結果を受け入れるしかなく、他の 2 選手の動向も気になるのですが、残されたことは明日の最後の第三試合に全力で闘うことだけでした。

試合後、うなだれるのどかを促して、次のイベント会場に移動するためにとぼとぼと歩き始めるのですが、私が国際電話で母と通話するかと聞くと、首を横に振り、今は話したくないと拒んだことが、よほど悔しくショックを受けていたことを如実に反映していました。

その後、他のプログラムに参加している選手団と合流すると、ようやくまたいつもの無邪気な表情を見せるのでした。

翌日の第三試合、最後の決勝試合は、始めから早めのアップで身体を温めることと、サーブを課題にしていたために、念入りにストレッチと、ラケットを持たない状態でのサーブのイメージトレーニングを繰り返しました。何より意識したのは、思いっきり打てば、絶対に負けることはない、だからしっかり頑張れと暗示をかけることにしたのです。

結果は、十分な事前準備も奏功し、6-3 で無事に勝利を収めることができたのです。終わった後の誇らしげな表情は、ようやく緊張感から解放されたことも相まって、やっと自然な笑顔が戻ってきたのです。

表彰式を待つ間は、敢えて他選手の動向、結果を探らずに、最終結果発表を待ちました。すると、4 人の総当たり戦で、きれいに 3, 2, 1, 0 勝と区分され、結果銀メダルとなったのです。唯一負けた試合が心残りではありましたが、遠路はるばるの遠征で、時差や疲れにも挫けないで、しかも完全アウェー、言葉もまったく判らないという状況で、それこそ最大限のパフォーマンスを発揮したと思っています。その意味では、今回の銀メダルは、大阪ナショナルゲームと同じ、銀メダルですが意味合いは全然違うように思えます。今回優勝したスザンヌさんは今月開催される SO 世界大会（ギリシャ・アテネ）に参加されると聞きました。昨年のお阪大会に参加され優勝した小原さん（SO 宮城）も同じくアテネ大会に参加するようです。のどかと対戦し、勝利を収めたこの二人には大いに頑張ってもらいたいと思います。

こうして、大会を一つ一つ経験する度に、のどか自身の中での位置付けが変わると思いますが、少なくとも私のレベルでは、結果はともかく金メダルに相当する位の頑張りを発揮できたと思えます。そして金メダルを手中に収めることが出来なかった悔しさは、必ず日々の練習に反映され、次のチャンスで大きく羽ばたいてくれるものと思います。

試合前後で、気分を紛らわせて解きほぐして下さった今川団長、今川さんにも感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

三田村 真 (SO 埼玉・上尾)